

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 教授

氏名 大木茂

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

動物資源経済学研究室において、主として畜産の経営・経済を国民経済の視点から全体的な構造の理解を促進するように教育している。

関連する分野として、動物応用科学実習（必修）ならびに牧場実習（選択）のコーディネーターを務めるなかでも、畜産業に関わる実習も取り入れている。

その際、畜産現場の動向や発展方向性ないし政策課題を踏まえ計画・実施している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	4
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	9
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	4
動物資源経済学演習	動物応用科学科	選択	4	10
動物資源経済学	動物応用科学科	必修	2	158
社会調査論・キャリア形成	動物応用科学科	必修	2	139
牧場実習	動物応用科学科	選択	2	83
動物応用科学実習	動物応用科学科	必修	1	136
経済学	動物応用科学科	選択	1	107
動物資源経済学特論Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	3
動物資源経済学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	4

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

私立理科系の学生に社会の仕組みや広がり、社会科学の学問の意義の理解を促すことはとても重要であるという認識の下で教育を行っている。特に麻布の学生は、社会や社会科への関心が弱い学生もいる。そこで日常の経済現象や経済行動を認識してもらいながら、それらの事柄が科学や動物とどのように関わるのかを理解できるようにしている。また事柄を理解するには覚えることも必要であり、覚えた事柄の積み重ねが理解を確実なものにするということも分かるようにしている。また現場を見る・知る・体験する事で初めて理解が深くなることも少なくない。そして一つの経験がそのあとの人生に大きな変化をもたらすほどのこともある。ゆえにそうした体験が意義深いものになるような準備を実習コーディネートでは心がけている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

理念を実現するには、第一に姿勢が重要である。可能な範囲で主体的な自発性に依拠した教育を行うことを重視している。そして毎回の授業への復習課題を課すことで勉強・学問・課題に向き合う姿勢の形成を試みている。

第二に、教育の向上という点から、学生の要望に対応すると同時に、まずは多くの知識を理解し吸収できるように、授業資料を多く提供し、深くあるいは細部を丹念に理解しようと試みることを可能にしようとしている。

第三に、質問・疑問に関しては、次回授業や追加スライドにより理解定着を図る。そのことで授業進行に支障が出たときは、資料の補足により対応している。

第四に、授業参加により、将来の進路を考える上で参考になるような、視野を広げられるような内容提供を重視している。

当研究室の専門性である、経済学・動物資源経済学においては、上記に基づいて、毎回の授業に関し理解度確認の復習テスト、授業内容の要点を整理したノート(レポート)、そして自由レポート(枠外の評価)により、自主性・主体性を喚起し、ステップを踏んで理解を進められるようにしている。又フィードバックとしては、復習テストの解説を次回の授業で行うことで、理解定着を図っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

3年生の専門ゼミにおいては、畜産物フードシステムについて畜種ごとに現状と課題を整理したポスターを作成している。その際畜種ごとに2～4人のグループに分かれてディスカッションしながらポスター作成を行っている。最初の構成段階、内容調べが終了しラフなポスター段階、発表後のポスターの段階でそれぞれグループ間のディスカッションを行い、より深い探求を求めている。このプロセスを通じて卒論テーマを見つけることを推奨している。ジェネプロでは、放牧畜産等をテーマに、乳用牛、養豚、採卵鶏の経営を訪問し実際に経営者から話を聞くなどして理解を深めた。実際に放牧経営をする現地に足を運ぶことで、気温・景色・匂い・音などをはじめ様々な事を総合的に理解することの必要性を示すようにしている。

(2) ICTの教育活用

有

専門ゼミ・卒論において、Googleのチャット機能を使用して、3年生・4年生に今週の課題等を迅速に情報共有している。また、課題論文の共有も行うことで、テキストの配布・受領ミスをなくしている。ゼミでの発表スライドやレジメなどの共有もこれを使用することで、モニターから遠い位置にいる学生も手元で資料を確認出来る。

動物資源経済学演習では、フィールドワークセンターとオンラインで結んで現地の状況の情報交流を行った。今後は、都市近郊畜産の経営者へのインタビューを1度は現地訪問、1度はオンラインを利用して実施して、学生と対象経営の負担軽減を図る。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業では、一定の列より前に座る学生にたいして、授業中に質問をすることで、問題を考えてもらうようにしている。質問されたくない学生は一定の列以降に座っているので、そうした学生も含めて、全学生に質問して挙手で「はい・いいえ」を答えさせることで、授業への集中力を回復してもらうようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業において毎回の確認問題テストと称して授業内容の復習を課している。問題としては極めて簡単で該当のスライド（授業資料）をみつけることが出来れば、あるいは授業を聞いていれば回答できる単純な内容を聞くことにより授業の理解度を把握しようとしている。あるいは、論点になっていることについて意見を述べさせることにより授業スライドの振り返りを促すようにしている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業で配付する資料（スライド）は、毎回50枚程度としている。このうち授業で使用する（説明する）ものは、4～5割であり、それ以外は参考とスタンプして、関連資料をランダムにいている。こうすることで表面的なわかりやすい事実やトレンドだけでない、背景にあるより大きな課題などの理解につなげてほしいと思っている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

質問には丁寧（口頭・メール）に回答している。しかし内容が難しいのだろうか、内容に関わる質問はあまり多くない。また授業中で難しかった経済学理論等に関しては、復習回を設けて、内容を再度説明するなどしてできるだけ理解の糸口を示している。また、大事な部分を説明するときは、よく注目してほしい旨のアナウンスを入れてから、必要に応じて寝ている学生をおこしてから説明している。

(5) 双方向授業への工夫

B

授業では毎回学生への質問、手を挙げさせることでの問い、などを実施しているが、それが理解につながっているかどうかは不明である。また質問などを行うと予想以上に時間がかかるため、必要な説明内容を説明しきれないこともあることから、重要であり180度取り違えることだけは避けたいような内容に関してのみ、この時間をかけた双方向性を保証する方がいいのかもしれない。

(6) 国家試験対策の取組 (獣医学科・臨床検査技術学科)



該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

配付資料が多すぎる⇒核となる内容と資料となる内容を分けて示すことで、総量は変わらずとも重点をわかりやすくした。

難しい⇒できる限り言葉で取り違えないように説明を加えた資料とし、同じ事を異なる方向からくり返して説明している。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

配付資料に関しては、込み入った議論は削除している。希望がある学生に対してのみ、配布することとした。説明が長くなる内容は、学問的には問題もあるが、かなり単純化して説明するように心がけた。希望者には追加で説明をするようにした。この結果、かなり初歩的な内容だけを授業で扱うという形が定着してしまったことは、課題と感じている。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業は初歩的な内容を網羅的に行う一方で、問題を深めるための資料のアクセス先を示すことでより、簡潔に授業は行う。また、個人の意見と事実の判別がわかりにくいという授業への意見もあるので、個人の見解である部分は確実に判別できるように注意を促して進めていく。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

①毎回の復習問題、②授業内容を整理して提出させるレポート課題、③そして一切の持ち込み不可による定期試験 この3つにより、成績評価を行うこととしている。この3つの方法で、授業の理解度は高まっていると感じている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特に、動物資源経済学の授業においては、休み時間中にそれなりに質問を行う学生が現れ、理解が進んでいると思われる。また、確認テストを複数人で一緒に考えて回答する例も見られて学修の自主性が強化されている気配も感じられる。

7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

2023年1月20日FD研修会 デジタルマッピング

2022年11月28日FD研修会 講義科目における成績評価

2022年9月14日FD研修会授業目的公衆送信補償金制度に関する利用報告

2022年3月10日FD研修「麻布大学のデータサイエンス教育」

2022年3月25日FD講演会『2021年度授業に関する説明及び授業デザイン』

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

短期目標

半分以上の学生から考える上での参考になった、という授業をしたい。

できれば1割ぐらいの学生からは、私の示した事実・論理に、それは間違いではないですが、あるいは私は異なる考えです、といった意見を示してもらえるような授業になりたい。

そのためには、技術的に、授業内容の効率的時間配置を行い、多様な教養的情報とその情報検索方法を知ってもらうようにしたい。

長期目標

STEMからSTEAMにという教育のトレンドがあるが、Aはリベラルアーツであり、人間を自由にさせる技の一つとして経済学的な見方を提供し世の中の課題発見・解決策提示を行うことが目的で、経済学的な見方を学んだ学生が、産業動物の経済に関して、興味を持って卒業論文に取り組むようにしたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

動物資源経済学シラバス

経済学シラバス